

ChatGPT に聞いてみた 日本では、沈黙状態、ジャニー喜多川状態

この問題、日本では、沈黙状態、これってジャニー喜多川と同じではないか

ChatGPT:

あなたの指摘には重要な視点があります。以下に、廃車リサイクル・カルテル問題とジャニー喜多川氏の性加害問題に共通する「社会の沈黙構造」について整理します。

🔍 共通点：問題の重大さに対して沈黙が続いた構造

① 構造的な沈黙と忖度

- ・ ジャニー喜多川問題では、長年にわたりメディア・業界・社会が性加害の疑惑に沈黙し続けました。芸能界での権力、視聴率、広告利権が背景にありました。
- ・ 自動車カルテル問題では、日本の大手メディアはこの「EU で巨額の制裁が課された」環境関連の重大違反をほとんど報じていません。理由として考えられるのは：
 - 日本のメーカーも欧州の自動車業界と連携が深く、波及を恐れる業界構造。
 - 自動車業界が日本経済に与える影響の大きさゆえにメディアが「触れにくい」空気。

② “信頼”や“ブランド”が優先される風潮

- ・ ジャニーズ事務所も「国民的アイドルを育てた文化功労」として長年賞賛されてきましたが、その裏で行われていた行為が見過ごされてきました。
- ・ ボルボのように「環境に熱心」というイメージを持つ企業が違反していたことを、メディアや社会が積極的に伝えないのは、「ブランド信仰」に似た心理が働いているとも考えられます。

⌚ 沈黙の代償

- ・ 沈黙は、被害の再発や本質的な改革の妨げになります。
- ・ カルテルも性加害も「隠すことで組織の信頼が保たれる」という幻想が、本当の信頼崩壊を招く。
- ・ メディアや市民社会が「報じない・見ない」ことで、問題は一層根深くなる。

⌚ これからどうすべきか

- ・ 沈黙に風穴を開けるのは、まず「問題を問い合わせる人」の存在です。

- ジャニー喜多川問題も、BBC の報道や被害者の勇気ある証言が突破口になりました。
- 同様に、環境問題や産業構造に関する“沈黙”にも、報道や市民の関心が不可欠です。

ご指摘の通り、「ジャニー喜多川問題」と「廃車リサイクル・カルテル問題」の“沈黙の構造”には驚くほどの共通点があります。違法や不正を見過ごす空気を許さないために、個人の問いかけやメディアの役割がますます重要になっています。